

2021 年度プロジェクト活動報告：コミュニティ・レジリエンス・リサーチ

■プロジェクト代表：金山智子

分担者：小林孝浩、吉田茂樹

履修生：(M1) 上森拓、王芯藍、小林玲衣奈、路雨嘉

(M2) 松村明莉、メノン・カルティカ

■研究概要

本プロジェクトでは、地域の問題を「社会生態系システムのレジリエンス」として捉え直し、また意識化することで、これからの持続可能な地域社会への移行を望む私たちにとって何が大切なのかを探求することを目的とする。2年目となる本年度は、COVID-19の影響を受けながらも、全体としては30回以上のフィールド調査を行うことができた。また、内藤記念くすり博物館や春日森の文化博物館など、研究に関連する文化施設での見学も実施した。特に、春日森の文化博物館が行う館内の探検ランドのリニューアル展示に本プロジェクトメンバーが参加、展示物のデザイン・制作、ワークショップの企画運営などを担った。

今年度は、オープンハウスにてフィールドワークをテーマに展示を行った。また、連関を辿ることで100年近いスパンで起こっている様々な事象について明らかにすることができた。例えば、森林から切りだした木が1世紀を経て現代社会において循環している流れ、50年前の嫁入り道具である工業用ミシンが現代の高齢者にとってのものづくりのツールとなっている様子、森の中の見えない生きものたちによる世界制作、伝統文化である盆踊りが新たな人たちを巻き込み革新を続けている状況、あるいは、増殖する太陽光パネルと地域社会の影響などである。IAMAS2022で「そこで生き続ける力に光をあてる」と題して、自分の表現を通してこれらを可視化させた。

■主な活動内容

(1) フィールドワークおよび施設見学

2021/4/24	根尾越波集落	水源修理作業見学、フィールドワーク
2021/5/2	根尾越波集落	越波集落の春まつりと直会に参加
2021/5/10	根尾越波集落	プロジェクト基礎、フィールドワーク、ワークショップ
2021/6/7	金生山明星輪寺、採掘場	フィールドワーク

2021/6/12	根尾能郷集落	水源、森林、集落フィールドワーク
2021/6/14	南宮大社、御首神社	フィールドワーク
2021/6/18	根尾畑	草刈り、植え付け
2021/6/25	春日森の博物館	博物館見学、森のフィールドワーク
2021/6/28	根尾能郷集落	フィールドワーク、能郷集落グループインタビュー
2021/7/2	本巣市チップ	チップ製造会社視察
2021/7/5	根尾能郷集落	フィールドワーク
2021/7/9	根尾能郷集落、長嶺集落	能郷森フィールドワーク、陶芸家金子さん宅
2021/7/14	根尾越卒集落、根尾公民館	フィールドワーク、根尾盆踊り練習
2021/7/16	ねおこ座	県博物館展示打ち合わせ
2021/7/26	根尾畑、根尾能郷集落	畑作業、フィールドワーク
2021/7/28	根尾公民館	根尾盆踊り練習
2021/7/29	春日森の博物館	リニューアルのためのフィールドワークと打合せ
2021/8/14	根尾越波集落、上大須	越波集落夏まつり、直会参加、美術家林隆一さん宅
2021/8/17	内藤記念くすり博物館	見学
2021/10/8	根尾畑、根尾越波集落	畑作業、所さんインタビュー
2021/10/10	春日森の博物館	リニューアル（展示）オープン
2021/10/15	根尾越波集落、根尾畑	松葉五郎さんインタビュー、畑作業
2021/10/22	美濃まほろば、根尾畑	古民家見学、打合せ、畑作業
2021/10/31	春日森の博物館	リニューアル・ワークショップ
2021/11/6	根尾公民館	根尾盆踊り練習
2021/11/22	根尾能郷集落	葉名尻さん他インタビュー
2021/12/4	根尾長嶺集落	根尾盆踊り拝殿での練習
2021/12/21	根尾門脇集落	根尾住民との交流会
2022/1/22	根尾能郷集落	フィールドワーク

(2) 成果発表

オープンハウス：Field Notes

5人の学生たちが、それぞれ『能郷フォレスト』『見えない動物』『一枚の手ぬぐいから』『能郷、耳を傾けて。』『解体』と題したフィールドノートをオンラインで展示した。

春日森の文化博物館：探検ランドリニューアル展示

「探検ランド」展示制作、長寿の森スタンプラリーの企画デザイン・製作、ワークショップ「モリノカタチ」設計実施などを行った。

根尾小中学校閉校記念事業「根尾ふるさとのつどい」：根尾盆踊りを披露するにあたり、プロジェクトの学生メンバーが参加

IAMAS2022: 展示「そこで生き続ける力に光をあてる」

様々な変化に耐え、形を変えながら、何百年も存続している岐阜県本巣市根尾地区の山間部の集落でフィールドワークを繰り返しながら、社会生態系のレジリエンスとは何かをそれぞれが問い、自分なりに答えを見つけた。それは、森林との関わり方、伝統文化の続け方、エネルギーの生み出し方、ものづくりの楽しみ方、あるいは、新しい仕事の生み出し方であった。そして、それを自分の表現で可視化させた。

CRR2021 報告書：

昨年に引き続き、2021年度の活動およびIAMAS 2022にて発表した内容を冊子にしてIAMAS BOOKSにて2021年5月末頃に配布予定。